

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月27日

### 【評価実施概要】

事業所番号	3870800145		
法人名	社会福祉法人 愛美会		
事業所名	グループホーム 虹の里		
所在地	愛媛県四国中央市上分町乙8番地73 (電話) 0896-58-0012		
管理者	合田昭子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	松山市持田町3丁目8-15		
訪問調査日	平成19年6月12日	評価確定日	平成19年8月28日

### 【情報提供票より】 (19年5月10日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 10年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	7 人	常勤 7 人, 非常勤 人, 常勤換算 7 人	

#### (2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,900 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	140 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 昼食代に含む
	または1日当たり 840 円		

#### (3) 利用者の概要 (5月10日現在)

利用者人数	8 名	男性 0 名	女性 8 名
要介護1		要介護2	1 名
要介護3	3 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 88 歳	最低 81 歳	最高 95 歳

#### (4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり(なし)	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	あり(なし)	指定認知症対応型通所介護
届出	あり(なし)	短期利用型共同生活介護
加算	(あり)・なし	医療連携体制加算

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路から少し入った山の中にあるホームである。近隣に住居は見当たらないが、自然に囲まれており静かで落ち着いた場所である。特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、ケアハウスに併設されたホームであり、ケアハウスの2階にこのホームがある。大型施設であり、広いグラウンドではバーベキューや夏祭りが行われる。協力医療機関が総合病院であることと、隣接している施設には看護師が常駐していることなどからも、緊急時など医療面については安心感がある。管理者と職員はチームワークを大切にし、全員で情報を共有することを心がけ、また理念を朝礼で復唱することで常に理念に立ち返っている。そのため、利用者の側にはいつも職員の姿があり、共に生活している様子がうかがえる。

### 【質向上への取組状況】

<p>▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で課題として挙げられた項目については管理者と職員全員で話し合い、改善計画表を作成している。また、ソフト面から改善に取り組めること、書類の形式、薬の保管等については、評価後直ぐに取り組むなど積極的に行いサービスの質の向上に努めている。</p>
<p>▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全員で意見を出し合い評価に取り組んでいる。常に管理者と職員が日々のケアについて話し合い、記録をし共有化を図っていることが今回の評価でもうかがえた。</p>
<p>▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は定期的に行われ、日常の活動・行事等の報告をしている。今後、運営推進会議での課題設定について家族や職員間で話し合い、また利用者にも参加してもらうことでより活発な会議となるよう期待したい。</p>
<p>▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会や面会に来た家族の言葉の中から意見や思いをくみ取るように努め、処遇記録や申し送りノートにて家族と職員の言葉を記録し職員全員で共有する体制をとり、またミーティングで話し合い、サービスに反映させている。</p>
<p>▼ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>山の中腹にあるため、近隣に住居は見当たらない。しかし、ホーム側からサロンや老人会に出向き地域の人々と交流をし顔見知りの関係を築いている。</p>

(別表第1の2)

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに○を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム虹の里

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)  
氏名

合田昭子

評価完了日

19年 5 月 10 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 地域とのふれあいを大切に、自立支援を心掛けた理念をつくっている。  (外部評価) 地域密着型サービスについて職員全員で話し合い、これまでの理念に加え「地域の方々との交流を深める」「その人らしく自立した生活の援助を行う」ことを新たに作り上げ、積極的に取り組んでいる。	※	老人会やサロン等地区の集まりに参加している。その他にも7月に行なわれる四国中央市紙まつりでフリーマーケットに手作りの物を出店したいと考えている。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) ホーム内の分かり易い所に理念を掲示しており、朝礼で復唱し共に理念の実現に向けて話し合っている。  (外部評価) 去年より朝礼にて理念を復唱し、管理者・職員共に常に共有している。また復唱することで心に常に留めることができ、業務に追われそうになった時に振り返るきっかけとなっている。	※	実現に向け取り組んでいきたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) ご家族へ近況を報告し、ホーム便りの発行、サロンへの参加により地域の方にその意義を理解してもらえるよう取り組んでいる。また法人の行事等においても、ふれあいの場を持っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 周りに民家が無いという立地条件の中で、併設のケアハウス利用者や近くの他のグループホームの方々とのつきあいをしている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地区のサロンや老人会等へも参加しており、法人全体で行なう七夕祭り、盆踊りに参加。また、市主催の紙祭りのフリーマーケットへの出店を予定している。  (外部評価) 老人会やサロンへは初めに職員が交代で出向いて馴染みの関係を築き、ホームを知ってもらった上で、利用者に安心して参加してもらう体制が整っている。また現在は市の紙まつりでのフリーマーケットへの出品の準備も行っている。	※	現在フリーマーケットへの出品物を製作中である。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 在宅介護支援センターと共に介護予防教室へ参加し、グループホームや介護保険制度の説明をしている。	※	各地区のサロンや老人会へ利用者と参加するだけでなく、認知症ケアについての説明等していきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価の意義については、全職員で話し合い、全員で取り組み、質の向上に努めている。  (外部評価) 自己評価は職員全員で取り組み、前回の外部評価にて改善すべき点については改善表を作成し、サービスの質の向上を目指している。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 現在のところ、日常生活や行事の説明・報告し意見等があれば活かせるように努めている。しかし、評価への取り組みについての説明は出来ていない。  (外部評価) 開設以来3回開催されているが、まだ意見交換までは至っていない。口頭だけでなくスライドを使って利用者の暮らしぶりを見てもらうなど工夫をし会議を進行している。	※  ※	評価については、6月開催予定の運営推進会議において説明する予定である。  今後、運営推進会議での課題設定について家族や職員間で話し合い、また、利用者も参加することでより活発な会議となるよう期待したい。現在は施設の4階で会議を行っているが、ホーム内で開くことで参加者に雰囲気を感じてもらいたいと管理者は考えているため、取り組みに期待したい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 月に一度、市から委託を受けた介護相談員の訪問を受け、利用者の声を聞いてもらい、サービスの向上に活かしている。  (外部評価) ふれあい相談員が月に一度ホームを訪問して利用者の声を聞いている。また、在宅介護支援センターの職員と共に公民館やお年寄りの会に訪れ、ホームについて話をし交流の場を設けている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 県主催の研修会へ参加し、また、勉強会も行なっているが、全員が理解し、支援するには至っていない。また、そのような機会自体が少ない。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止法については、研修会等へ参加し勉強しているところであるが、日頃のケアの中で、つい思いがこうじて命令口調となるケースもある。	※	日々の業務の中で、職員同士が注意をしあい、命令口調にならないようにする。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時には契約書や重要事項説明書により説明し、退居時には、その理由を説明し、合わせて今後の対応を家族と十分協議している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 月1回の介護相談員の訪問時に、利用者の思いを聞いていただき、運営に活かしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会時を利用し、又、遠方の方には電話で報告をしている。金銭管理報告書、虹だよりを3ヶ月に1度家族へ送付している。  (外部評価) 3か月に一度「ホーム便り」を発行し、金銭管理報告書を添えて送付しているが、利用者の健康状態に応じてその都度連絡を取っている。面会が少ない家族に対しては電話連絡を行い状況を説明している。		家族が知りたい情報は何かを考え、個別の報告を行なうことにより、家族との信頼関係を築くよう努めている。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時に声かけし、又、苦情処理箱を設置しており、全職員で検討し運営に反映させている。  (外部評価) 家族会や面会に来た家族の言葉の中から意見や思いをくみ取るように努め、処遇記録や申し送りノートにて家族と職員の言葉を記録し職員全員で共有する体制をとり、またミーティングで話し合いサービスに反映させている。		不満や苦情等の意見をいい易い人間関係を作るよう努めている。
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会等を利用し、意見や提案を聞いている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 十分な余裕を持った人員配置は出来ないが、他部署の協力を得、柔軟な対応に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動や離職は最小限にとどめ、その前後には利用者、家族へ説明している。  (外部評価) 楽しい職場環境、チームワークを大切にすることを心がけ、職員の離職を最小限に止めている。離職・異動があった際は利用者や家族に説明をし、言葉かけを通してダメージを防ぐ配慮を欠かさない。		引き継いだ職員はコミュニケーションを多くとり、1日も早く馴染みの関係が作れるよう努めている。
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所内外の研修に全職員が参加出来るよう計画を立て、研修内容は職員会で報告している。  (外部評価) 職員全員が順番に研修に参加できるよう勤務調整を行っており、研修の報告は職員会で行い、全員で共有化を図っている。		
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会への参加、又、関係事業所との交流をすることによりサービスの質の向上に取り組んでいる。  (外部評価) 近くにある関連の同業者と、六地蔵参り等を通して交流を持っている。また、グループホーム連絡協議会にも入っており、研修を通して他のホームとの関係を現在築いているところである。	※	地域のグループホームとの交流は出来ていない状況であるが、今後検討していきたい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 構造上利用者と離れ休憩できる場所はないが、昼食後ゆっくり休憩をとっている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 個々の能力を把握し、働きやすい体制をとっている。	※	日々向上心を持ち、利用者が楽しく笑顔で暮らせるよう努めて行きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前面談では、本人、家族より生活状態を聞き、本人の思いや不安を十分聞くようにしている。	※	入居前の生活状況を把握する為、家庭へ訪問する。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族が困っていることを十分傾聴し、安心して利用していただけるよう努めている。	※	利用後も状況報告等において、利用者と職員のかかわりを説明し、家族との信頼関係を深めたい。
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族がどのような支援を求めているかを見極め、対応に配慮している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 見学を通じ、又、十分な話し合いの機会を設けているが、家庭の都合などでホームの雰囲気に慣れる前に入居されるケースが多い。 (外部評価) 本人にホームの雰囲気に慣れてもらってから利用に移行する体制であるが、その前に入居されるケースが多い。しかし、家族が頻繁に面会に来られるためホームで安心して生活を送っている。	※	環境や雰囲気に慣れるまで、頻回に面会してもらえるよう家族へお願いしている。 管理者は利用前に家庭訪問を行うことで利用者の生活歴を把握し、より安心してサービスを利用してもらえるような体制を検討しているので、今後の取り組みに期待したい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 職員は、利用者が人生の先輩として学ぶことも多く、お互いに支えあい、喜びをわかちあっている。 (外部評価) 食事の準備では利用者により切り方や作り方を教わるなど、場面づくりや声かけを行っており、お互いが協働しながら生活する関係ができている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には、現在の状況を報告し、協力してほしいことはお願いし、共に利用者を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人の家族への思い、又、家族の本人への思いを考慮し、面会時には楽しい一時が過ごせる様支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地元のサロン等に参加し、馴染みの関係が途切れないよう努めている。	※	サロン等への参加を出来る限り多くの利用者へも勧めていきたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を十分把握し、利用者同士が楽しく過ごせる様橋渡しをし、又、フロア内の環境づくりにも気をつけている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 心身状態の変化により他の施設へ入居された時は、可能な限り面会に行き、様子を伺っている。また、職員に限らず、利用者も訪問出来るよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の生活の中で、他の利用者や職員との会話の中から、利用者の思いを把握できるよう努めている。又、困難な人は、今までの生活歴を考慮し職員間で話し合っている。  (外部評価) 家族からの情報や生活歴、また利用者との日々の関わりの中において、言葉や表情から思いや意向を把握している。		
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時にこれまでの生活歴を聞き、又、面会時にも少しずつ細かい部分を聞き、把握できるよう努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々の生活の中で、一人一人が持っている能力を把握できるよう努めている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の思いやどのように暮らしたいかを尋ね、又、家族とも話し合い、介護計画に反映させている。  (外部評価) 家族・本人の希望にそった介護計画を、利用者の担当職員と共に作成している。家族の面会時には介護計画表を見せ意見をもらっている。		入居時に利用者、家族から生活暦を聞き、月1回のケース会において課題をあげ、取り組んでいる。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 6ヶ月に1度の見直し、又、状態が変わればその都度見直しを行なっている。  (外部評価) 6か月に1度の見直しであるが、利用者の状態に応じて随時見直しが行われている。また6か月毎に職員もローテーションを行い、全員が利用者の介護計画に関わる体制を取っている。		月1回のケース会で、個々の状態について話し合い、ケア内容を確認している。
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 処遇記録に詳しく記録し、口頭においても申し送りを行ない、情報を共有し見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 家族が受診に対応出来ないときは、職員が対応、又、受診に行けないケースは往診で対応。その他家族の相談にも応じている。  (外部評価) サロンへ職員が同行したり、また、家族の意見を聞き、病院への送迎や受診をホーム側が柔軟に対応している。		利用者がお墓参り等を希望された時は家族へ連絡、また、サロン等には職員と共に参加している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 併設施設の支援は受けているが、ボランティア、教育機関との協働はない。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要があれば、支援するが、現在のところ他のサービス利用はない。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括支援センターとの協働はないが、運営推進会議への参加をお願いし、グループホームを理解してもらえるよう努めている。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 受診の際には家族へ連絡し家族の希望に添うよう努めている。又、家族が付き添えない時は職員が付き添い結果を報告している。 (外部評価) 協力医療機関での受診が殆どであるが、入居の際に説明をし、家族の希望に応じてかかりつけ医の受診を行っている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) かかりつけ医は認知症をよく理解しており、指示や助言をもらっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 訪問看護ステーションの看護師に日常の健康面について相談、助言や指示を受けている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 早期退院に向けて積極的に医療機関や家族と話し合いの機会を持つよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度化している利用者については、繰り返し家族と話し合い、家族の意向を明確にし、かかりつけ医とも話し合いを持つ等マニュアルを作成している。  (外部評価) 重度化した場合の看取りのマニュアルや同意書を作成し、ケアについての説明をしている。また、利用者の現状に応じで随時家族や医師と話し合いを行っている。		終末期をどのようにケアするかをケアプランに入れ全職員が方針を理解している。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 訪問看護師、かかりつけ医と共に、チームとして支援し、職員間でも今後の変化に十分気をつける様に話し合っている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 利用者が好むこと、好まないこと等細かく情報交換することにより、ダメージを少なくしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 人生の先輩である事を認識し、言葉かけに注意するとともにプライバシーにも十分気をつけている。  (外部評価) トイレ誘導の時は耳元でさり気なく行い、また居室へ入る時も声かけを行っている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 判断能力のある人には、希望等を聞き、そうでない人には、その人の能力に応じて説明している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の生活は、利用者個々のペースで過ごしていただき、行事等への参加も自由としている。  (外部評価) 職員が時間に追われる様子はなく、利用者の思いのままに時間が流れているように見えた。ソファで寛ぐ、居室に戻る、テレビを見る等自由に過ごし、その中に職員も自然に溶け込んでいた。		起床・就寝の時間も自然にまかせている。自己決定できない人には状況に応じ支援している。
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 2ヶ月に1度理容師さんに来ていただき、個々の希望に添ったカットをしてもらっている。また、希望があれば馴染みの美容室へ出掛けている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と共に調理、盛り付け、片付け等を利用者の能力に応じお手伝いしてもらい、楽しく食事ができるような雰囲気づくりを大切にしている。  (外部評価) 食事の準備や片付けの場面には利用者の姿があり、食事中はテレビを消し、職員と利用者が会話を楽しみながら食事を摂っていた。また、歌を歌ったり昔の話をする利用者もあり、常に会話が絶えない食事風景であった。		介助が必要な場合は、さりげなく介助し、声掛けを多くし、楽しく食事が出来るよう心掛けている。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 一人一人の状況に合わせた支援は難しく、全員が同じ飲み物、おやつであるが、皆さん大変喜ばれている。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表にて確認し、声掛け、誘導を行ない、失敗のないよう気をつけている。又、普段の行動パターンにも気をつけている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 毎日入浴の希望を聞き、午後から時間を気にせず入浴していただいている。  (外部評価) 入浴の時間帯は午後からであるが、利用者の希望に合わせて毎日の入浴支援をしている。拒否のある時は無理強いはせず、言葉かけの工夫を行い利用者のペースに合せている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動において疲れのみえる方には休憩の声掛けをし、又、一人一人の就寝時間を把握し、安心して休めるよう声掛けをしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 個々の能力に応じた役割分担を決め、楽しみごと等は全員で取り組んでいる。  (外部評価) 食事の準備や編み物など、利用者の経験を発揮できる場面をつくっている。また、フリーマーケットに出品する作品を利用者と作成している。作品の作成が難しい人もゴミ捨て等できる範囲での役割を持ち、それぞれが楽しんでいる。		身体の動かす事の好きな利用者には、能力の範囲内で役割、又、随時の対応をし充実感が持てるよう支援している。
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には預りとしているが、買い物に出掛けるときには、自分で管理してもらい買い物をする。但し、利用者の認知症の程度にもよるが、常時の本人管理は難しい。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 毎日のゴミ捨てや六地藏参り、又、天気の良い日には、外で食事やおやつをとっている。  (外部評価) 施設のグラウンドにある六地藏参りが利用者の日課となっている。併設のケアハウスの方と一緒にバラ園に向いたり、お花見や喫茶店、サロンへ参加したり、季節折々でホームの近くにて土筆採りや栗拾いに向いている。	※	喫茶店やサロン等への外出の支援を行なっている。  併設施設の利用者と外出したり、法人全体としての催しなどに参加しているが、ホームの利用者のその日の希望に合わせた外出支援が行えるよう大型施設に併設しているホームのメリットを活かし法人との連携を今後より一層期待したい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 旅行や動物園等の遠方への外出支援は行なえていないが、お墓参り等は家族へお願いし出掛けられるよう支援している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は状況報告時に利用者とも会話できるよう配慮している。手紙は開設時にハガキを使用し、やりとりをしていたが、現在は行なっていない。	※	今後は、暑中見舞いや年賀状を出す予定にしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 訪問客を笑顔で迎え、又、さりげなくお茶をだし、挨拶したあとはゆっくりお話してもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員は身体拘束することによって起こりうる様々な弊害を理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		転倒の危険性のある人は常に見守り、声掛けし、今何をしようとしているのかを見極め対応している。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者が出て行こうとされた時は、さりげなく声を掛け、一緒に行動し見守りをしている。出来る限り自由に過ごしてもらうようにしている。 (外部評価) 自動ドアの電源は切られており、手動で開閉できるため自由に出入り可能であり、職員は常に見守りを基本としている。また、1階に施設の事務所もあるため、見守りの目が沢山あり安心できる。		現在、玄関のカギはかけずに出入り自由に行っている。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中利用者の方々はフロアで過ごすことが多い為、全員の様子を伺うことができる。夜間は2時間毎の見回りと随時の対応により安全確認を行なっている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 管理しなければならない物は何かを検討し、又、一人一人の状態を把握し使用時の見守り等対応している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 日々のヒヤリハットを記録し職員間で今後の対応について話し合っている。個人の要因によるものである時は、個別対応をしている。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 夜間帯の対応についてマニュアルを作成しているが、定期的な訓練等は行なわれていない。	※	今後、救急救命法について、実技を学んでいきたい。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 火災時の自動通報装置が設置されている。併施設設との火災訓練は年2回行なっているが、その他の災害について訓練は出来ていない。 (外部評価) 年に2回、併施設設と合同で避難訓練を行っている。ホーム自体でも利用者を含めた避難訓練を行っているが、火災以外の訓練は現在取り組み中である。	※	毎月1回ホーム独自の避難訓練を行なう。又、運営推進会議等を通じ、協力をお願いする。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 入居時に利用者のリスクをきちんと説明し、ホームの取り組みの方針を示し、納得してもらっている。	※	運営推進会議を利用して、地域へ協力をお願いできるような啓発活動を行う事を期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日バイタルチェックをし、普段の利用者一人一人の状態を把握しており、少しでも異変がある時は、全員で観察、又、状況によっては受診している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は一人一人の薬の内容を理解しており、症状が改善されなければ、再度医師に相談している。		一人一人に薬を手渡し、服用できているかどうか確認している。
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食事の献立にはいつも野菜を多く取り入れたり、水分摂取量にも気をつけている。又、掃除や体操で身体を動かす機会を適度に設けている。		自然排便がない方には、センナ茶や便秘薬など、その人にあった対応を心掛けている。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の歯磨き及び週1回の義歯消毒を行なっている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1日1600キロカロリー、水分1.5リットルを基本とし、利用者一人一人の摂取量をチェックシートに記入し確認している。 (外部評価) 食事、水分の摂取状況を毎日記録し、職員全員で情報を共有している。また、水分摂取が少ない利用者に対し清涼飲料水を飲んでもらう等一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		日中摂取量の少ない利用者には、夜間の水分補給に努めている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 日頃から衣類や身体の清潔に努め、予防に心掛けている。又、インフルエンザの予防接種は本人、家族の意向もあるが、出来る限り受けるよう勧めている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 普段の食材は、合同調理室で管理されている。台所は毎日夜勤帯で清掃し、まな板等はその都度消毒している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 構造上、ケアハウスの建物内にある為、ホームとしての玄関はないが、入り口に花を置くなどして暖かい雰囲気作りに努めている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 四季折々の花を飾り、又、利用者と共に作った作品やお雛様、五月人形を飾り、季節感をとりいれている。 (外部評価) フロアは南向きの大きな窓から自然光が差し込み、庭に咲く紫陽花が飾られ、また利用者と一緒に作った毛糸のスポンジや広告で作った肩たたき等が飾られており、シンプルながらも落ち着いた雰囲気であった。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 皆で過ごせる場所、一人になったり、仲の良い利用者と一緒に過ごせる場所をと、数箇所に椅子を配置している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族と相談し、家で使い慣れた物や日用品等を持ってきてもらっている。 (外部評価) 仏壇やソファ・ぬいぐるみ等、また自分の好きな色で統一した造花や布団等が持ち込まれている。利用者の体調に応じてベットからエアマットを使用するなど個々に合わせた居室となっている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 換気や温度については、職員が常に意識し利用者の状況を見ながら配慮している。又、トイレは換気扇と消臭剤で悪臭が出ないように努めている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 身体的な機能低下が見られた為、トイレ内に手摺りを取り付けた。その他にも転倒につながる要因は無いか常に意識し、安全な環境作りに努めている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 自分の部屋が分からない人には大きめの表札をかけ、トイレにも昔風の呼び名で大きく書き分りやすくしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) グランドを利用し、様々な行事や普段の散歩等を行なっている。広いベランダもあるが、出入り口の段差が大きく危険な為使用していない。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ①ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	日々の生活の中で、今何がしたいのか、どう思っているのか等を機会があるごとに会話の中から読み取っている。
89	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	毎日3時のお茶の時間には、ゆっくりと一緒に過ごすようにしている。又、日曜日は、出来る限り1日ゆっくり過ごせる様にしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	思いがこうじつい命令口調になることもある。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員の声掛けで、お手伝いをしたり、共に行動する事で、不安や戸惑いから解放され生き生きされているように思う。しかし、利用者の中には、そっとして欲しいというような表情をされる方もいる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	要望される方は少なく、出掛けたいと意思表示される利用者については、可能な限り対応している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	訪問看護師の健康チェックや体調不良の際の早期受診対応により、利用者の健康管理に努めている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個々の要望には出来る限り対応し、納得されるよう支援している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時に意見交換し、家族との信頼関係を築いているが、入居間もない家族とは時間が少なく、信頼関係が築けていない。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ①ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③たまに 4 ほとんどない	民家からは少し離れている為、地域の方は訪れにくいようである。利用者の知人やふれあい相談員さんが定期的に訪問してくれている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) ③あまり増えていない 4 全くいない	地域からの訪問も少なく、ホームの理解者はあまり増えていない。
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎日明るく笑顔で利用者に接している。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	生活に不便もなく、快適だといわれる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ②家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族等から不満はあまり聞かれないが、利用者へ対する思いや意見を言われることがある。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・ 食事前の石鹸での手洗い、外出後の手洗い、毎食後の歯磨きの徹底
- ・ 清潔でトイレに悪臭がない
- ・ 毎日の入浴
- ・ カロリー計算された食事
- ・ 月2回のフラワーアレンジメントや月1回のボランティアによるお茶会を通じ、併設施設や近隣施設との交流をはかっている
- ・ 季節に応じた行事を楽しむ(春・・・土筆やわらびを取りにいき食事で調理する 夏・・・地域の方や併設施設の方がたと合同盆踊り大会)